

# RICEBALL SEMINAR

2020年11月 & 12月

大学院ウィーク  
連携企画



申し込みはこちら

[https://forms.gle/](https://forms.gle/RhX44mutdAYnUxcV8)

RhX44mutdAYnUxcV8



Zoomにて  
オンライン開催

日時：毎週木曜日 12:20 — 12:50

参加費無料・セミナー終了後プレゼントあり！

※各回、先着100名様限定。アンケートにお答えいただいた学生、大学院生対象です。

vol.1

11/19

ひきこもりを哲学、する？——現象学 × 当事者研究

[講師] 小田切 建太郎 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

vol.2

11/26

インクルーシブ教育の臨床社会学  
—いかにディスアビリティを生活形式へと埋め込むか

[講師] 佐藤 貴宣 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

vol.3

12/3

立命館大学大学院キャリアパス推進室主催  
2020年度リサーチプロポーザルコンテスト受賞者による研究発表

本コンテストは、大学院生を対象に自身の研究のアイデアを、いかに研究計画書に魅力的に記載できるかを競うコンテストです。当日は受賞者の紹介と文系・理系分野の代表者1名ずつから発表頂く予定です。

vol.4

12/10

軍人政治家・宇垣一成のある一面——『若き士官』事件からみる——

[講師] 山口 一樹 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

vol.5

12/17

彼女の最後の希望はどこへ？——『理想的』開発主体としての少女

[講師] 中村 雪子 (立命館アジア・日本研究機構 専門研究員)

小田切 建太郎 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

ひきこもりを哲学、する？——現象学 × 当事者研究



- **専門分野** 現象学・哲学・倫理学
- **研究者の道に進んだきっかけ** 子どもの頃不登校になり、十数年間ひきこもりました。自分が無意味としか思えないときもあつたけど、哲学は常識とは別の意味を教えてくれる、そんな気がしたのかも知れません。とはいえ、本を読んで考え書くことには、何とも言えない楽しさがあります。そんな経験から、哲学研究の道に進んでいったのだと思います。
- **研究内容紹介** 人びとが社会で生きるとき、その人特有の様々な「問題」を伴うことがあります。ですが、専門家など第三者による一般的・客観的な説明では、個々の当事者が経験する主観的な「問題」には届きにくいという事情があります。当事者研究は、そうした「問題」を、当事者が自分自身で語り出していくという、まさに現象学的な研究です。「ひきこもり」をめぐる当事者研究とはどのようなものなのでしょう？今回はその概略や課題についてお話ししたいと思います。

佐藤 貴宣 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

インクルーシブ教育の臨床社会学  
—いかにディスアビリティを生活形式へと埋め込むか—



- **専門分野** 教育社会学
- **研究者の道に進んだきっかけ** 私は学部時代に障害者の社会運動について学んだことで、もっと障害者と社会との関わりについて知りたいと思うようになり、大学院に進学しました。大学院では当初理論社会学の勉強をしていたのですが、もともと教育にも関心があつたので、同時に教育社会学のゼミにも参加するようになりました。その背景には、障害を理由に普通の学校に通えないのはおかしいのではないか、という思いがありました。そして、博士課程に進学する頃には完全に教育社会学の分野で障害児の教育について研究していくことに決め、今に至ります。
- **研究内容紹介** 現在は、小学校でのフィールドワークを通じて、教師と障害児を含めたクラス集団との関係、障害児と周囲の子どもたちとの関係といったように、相互行為の具体的な水準にフォーカスした分析を進めています。それを通じて、障害児と健常児との同一学級処遇を指向する教師の実践とそれを可能とする学校組織のあり方について考えようとしています。

山口 一樹 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

軍人政治家・宇垣一成のある一面—『若き士官』事件からみる—



- **専門分野** 近代日本政治史
- **研究者の道に進んだきっかけ** 資料館でのアルバイトがきっかけで学芸員もいいなと思い、より専門的なことを学ぼうと大学院に進学しました。ですが研究は楽しいと感じて本格的に研究者を志望するようになりました。
- **研究内容紹介** 私の専門は近代日本政治史です。だいたい1920～30年代をメインでやっています。この時期は大正デモクラシーの隆盛と昭和における軍部の台頭としてよくみられます。そうした1920～30年代のキー・パーソンとして私は宇垣一成という人に注目してきました。彼は首相候補として期待されましたが結局なれなかった軍人政治家です。今回は軍人政治家・宇垣一成のある一面を『若き士官』という絵画をめぐる事件からお話ししたいと思います。

中村 雪子 (立命館アジア・日本研究機構 専門研究員)

彼女の最後の希望はどこへ？  
——『理想的』開発主体としての少女



- **専門分野** 開発とジェンダー、インド地域研究
- **研究者の道に進んだきっかけ** 学部生の時のゼミ報告で、エコフェミニズムの提唱者であるヴァンダナ・シヴァの『生きる歓び』という本に出合ったのがきっかけです。本書をつらぬく批判理論をベースにした「開発とジェンダー」の議論に関心を持ち、大学院に進学しました。
- **研究内容紹介** 「若い女性を対象にした国際協力」と聞くと、どのようなイメージでしょうか。よいことのように喧伝・実践されていることは、しばしば大きな力の作用のもとにあることがあります。また、その帰結は思わぬものかもしれません。本発表では、「開発とジェンダー」の領域で展開されている議論に基づいて、「若い女性」を焦点化する近年の国際開発の現状をフェミニズムをキーワードに読み解きます。

【日時】 毎週木曜日 12:20-12:50

【共催】 衣笠総合研究機構、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO)

【お問合せ】 衣笠リサーチオフィス TEL:075-465-8224 FAX:075-465-8342

twitter、Facebook も CHECK!!



[https://twitter.com/Rits\\_ResearchPR](https://twitter.com/Rits_ResearchPR)



<https://www.facebook.com/riceballseminar>

